

## 困難に直面しても意欲的に生活に取り組む子

—おちこみから言葉へ、自己表現を変えていく子をめざして—

杉谷 真由美

困難に対して“おちこみ”という閉鎖的な表現をしていたY子だった。Y子が困難を解決し、乗りこえていけるようにと、指導法の変化・教材の工夫・教師集団の連携・対人関係など検討し、取り組んだ経過について述べてみたい。

### 1. Y子の実態

#### (1) 生育歴

●S53. 5、23生 9：9才 長女、父S23生、公務員、母S26生、主婦（元看護婦）、兄（中2） ●妊娠中異常なし（やや血圧が高い）、正常分娩、出生体重3,580g、定頸5か月、発歯8か月、歩き始め1：6才、●生後5か月で県立厚生病院へ相談、国立医大でダウン症候群（21トリソミー）と診断（S53. 10） ●就学前 私立うつぶき保育園に4年（健常児と共に生活） 就学に伴って鳥取市に引っ越す（両親とも教育熱心）

#### (2) 遠城寺式発達検査

移動運動 4：8 手の運動 4：8 基本的習慣 4：8以上 対人関係 4：4

発語 4：0 言語理解 4：8

#### (3) 性格・行動上の特性、学習の実態

●身辺処理はほぼ確立している ●早口でやや言語不明瞭 ●負けず嫌い、記憶力に勝れ、以前の学習をよく覚えていることが学習意欲につながっている ●学習・生活ともリーダー的存在 ●簡単なひらがなの文章を読み書きする。漢字を覚えつつある ●100までの数概念が大体身につく、具体物によるたし算・ひき算を学んでいる ●親しんでいる曲が多く、ピアノで「ちょうちょ」（片手）を弾く

### 2. 取り組みの概要

#### (1) 当面する課題

4月、学級担任になって、Y子は学部内のリーダー的存在で、いつも意欲的に生活に取り組んでいるという他クラス担任の目に写った印象と違い、予想以上にささいなことでもつまづき、しゃがみこんだり泣いたりする“おちこみ”を見せた。具体的事例を場面にまとめてあげてみると、以下のようなこと、一日5～6回みられた。

場面	原因	対応
○新しいこと (自信がない)	○初めての曲で自分は知らない ○みんなの前で自己紹介できない ○順番はきたが、自信がなく歌えない	○教師側でおちこみが直るよう融通をつけた。
○自分の予想に反した時	○鈴の種類が気に入らない ○学校行事で個別学習がなくなった ○2組になって1組の時と生活の流れが違う	(1番に変更する)
○2番になった時 (競争・順番)	○自分のチームが負けた ○並ぶ順番が2番だった ○挙手したのに指名してもらえなかった	○なだめた (じゃ～しよう)
○歪んだ優越感から	○先生が他の子の側に座った ○1を2と読んだり、⑥が読めない子を見てイライラする ○歌い方や姿勢を注意された	○予想して未然に対応していった。

新学期の変化によることも要因としてあろうが、このような態度は昨年も見られたことだと記録からわかる。(右表参照)

対応の手がかりも「無視の中にチャンス…事前に約束できるくらい余裕をもって…機嫌とりしないで自分で立ち直るのを待つ」と記録されていたが、実際は、おちこみの対処法であり、「おちこみがあるのは仕方ない」と甘んじていたのを反省する。

5月、おちこみは減少したが、Y子自身の変容によるものはなかった。つまり、未然に防いだから減少したのである。

〈個人カルテより〉

- 時々ではあるが、気分が転換しきれず、行動変換ができず、すねたりおちこんだりの傾向も見られだした。(一学期)
- 負けたり思いが通らなかった時ふさぎ込んだり、床にうつぶせてしまう等、感情がかなり激しくなっている。(二学期)

(2) 指導仮説

5月下旬、母親の「家庭では、おちこみは全然ないのに…」の言葉に基づき、仮説を立てた。

- 「おちこんでみせたら思いが通るのではないか」という気持ちが無意識にあるのではないかと
- 「おちこみのない」家庭環境と同じにしたら、おちこみはなくなるのではないかと予想する(厳しい母親、精一杯ついていかなければならない近所の遊び友達)

2人の担任の話し合いではあるが、極端ではないかと思う所は十分認め、学校も家庭もY子に緊張を与える環境になることに十分留意し、尚且つ、思いきった仮説こそ指導の糸口が見つかることを期待し、Y子の発達段階も自制心や善悪の判断を養う時期にきていることを確認して、一カ月間、試行的に取り組むことにした。

4. 指導経過

(1) 6月～7月—指導方針の変化に伴うY子の変容—

—具体的対応—

- a 「そんな態度だったら、しなくていい」とつき放した。
- b 「おちこんだの?〇時〇分」「〇分経ったよ」と決してなだめず、自覚させ、自分から立ち直るのを待った。
- c 無視した。しばらくして普通に声かけた。
- d 「そんな態度はおかしいよ」とはっきり伝え、「どうして欲しいの言ってごらん」と自己表現を促した。
- e リーダー、確認役の意識を高めた。
- f わかる限りは日程を知らせたり、「～でも～しないこと」と心の準備をさせた。



—Y子の様子—

よけいに泣いた。「そんなこと言わんで」と怒った。おねしょ



〈帽子で顔を隠し、自信のなさを表している。が、援助されながら、ゲームをしているY子〉



〔左図の記号に対応した具体的事例〕

- a 「すねるんだったら個別を止めよう」というと「ウソだけな」とすねたことを取り消し、改めた。 9/2
- c オバQ音頭を知らなくて、みんなは踊っているのに、一人教室の隅にしゃがんでいた。曲が3回目に入る時「してみろ?」と声かけしたら仲間入りできた 7/10
- e 「Yちゃんどうですか?」と聞いたり「教えてあげて、やさしくね」と言うと、うれしそうにし、得意になって、ていねいに教えてあげていた。 6月上旬
- f 七夕の合同飾り作りで「U君のが長くても、おちこまない」と約束したら、実際おちこまなかった 6/24

時間を知らせていくうちに、1分以内で立ち直るようになった。

6/17

\*個別での学習内容が、回りの世界を見通す力になったり、新しい課題に取り組む姿勢が生活面につながることを意図し取り組んだことも効果が見られた。



「おちこんだの?」と言うと「私おちこんでない」とすぐ態度を改められた。

6/20

〈個別学習で、時計、カタカナ、文法、漢字等学習をする〉



6月～7月の考察

- おちこみの減少(ささいなことでおちこまなくなった)、おちこんでいる時間の短縮、自己コントロール力、援助されながらの自己表現など、Y子自身の変容が急ピッチで見られた。合同学習「七夕発表会」を評価の場として取り組んだが、とても良い評価となった。(P39後述)
- 新しいこと(自信のないこと)に関しては無理強いすべきではない。一回目は言えなかったせりふが、家で十分練習したらスムーズに言えだした(6/27)例に見るように、教材のあたためは、単におちこみ防止のためだけでなく重要なことである。『自信がない』『後からする』など言葉で表現する方向にもっていくことが望ましいと考える。
- 良かったりがんばったりしたらしっかり誉めることは、やはり忘れてはならないポイントだ。

(2) 9月「運動会」～11月「学習発表会」

各生活単元学習で、Y子のおちこみと生単の内容と照らし合わせ、目標を明確にして取り組む。

	目 標	様 子	考 察	備 考
運動会 9/20・10/8	<p>○競技ということで、勝負に伴っておちこみが予想される。負けて悔しい気持ちは大切にし、それを長びかせないことを目標とする。</p> <p>○もう一人の担任のチームにして自立を促す。</p>	<p>○母親から「毎年この時期になるとおちこむことを聞くのに、今年はないが～」と尋ねられるほど、おちこみが見られない 9/12</p> <p>○自分のチームが負けたが、泣くの堪えていた。慰められて甘えた 9/16</p> <p>○オクラホマミクサーに自信がないことを「あとで」と言葉で伝えた 9/18</p>	<p>○一度の注意で「ウソだけ」「もうせんけ」と態度を改められている、やり直しや新しいことにもさほどつまづかない、言葉の表現など評価される。</p> <p>○練習が済むと担任Sへ飛び込んでくる。このつながりがつき放しの大前提と再認識する。</p>	<p>9/12「学校に行きたくない」と欠席。精神的緊張、抑圧を心配したが、翌日から元気に登校して来た。</p>
いもほり 宿泊 10/26	<p><b>負けてもがんばる</b></p> <p>○ゲーム大会練習において、競技に伴うY子の変容を、同パターンでくり返されるゲーム練習の中で見ていく。</p> <p>○負けても「次に頑張ろう」という意欲を目標とする。</p>	<p>○3回とも全部2位だった。「またしよう」と言われても黙っていた 10/15</p> <p>○「ゲームはキライ」と口にする 10/16</p> <p>○負けて投げ出そうとしていた所、「そんなんで良かったかな?」と厳しく言うと、気を取り直した。 10/17</p> <p>○1位になり、大喜びした 10/20</p> <p>○「ゲームきらい」と言わない。 10/21</p>	<p><b>担任Sにとびつく</b></p> <p>○担任の指示なら、気を取り直して頑張れる所に来たかな?</p> <p>○がんばった後、抱きとめることは、やはり忘れてはならないつながりと思う。</p> <p>○3回に1回位、勝てるよう操作し、喜びを与えることも意欲的につながり、大切なこと。</p>	<p><b>いもほりゲーム</b></p> <p>○合同体育で相手チームが勝ったことに対し、拍手できた。</p>

学習発表会 11/22	○担任外の先生の指示をきく、言いたいことを伝える。 又、困難に直面しても、言葉で表現して前向きに解決していくことを目標。	○合同での様子はP.39に後述。 ○「さるとかに」の話を聞いて、かに役をしたいと意欲的。 10/29	○合同練習に入る前、話をきいたり本を見たりしていたのが、大きな意欲となった。 ○つまづきがほとんどなかった。 ○なさすぎるくらいである。 ○家庭の協力が大きい。	10/29	
		○誰が何の役か家で想像して話す 10/31 ○家でテープを聞いたり、シナリオを読んだりし、ほとんど覚えた 11/9		11/22	

9月～11月の考察

- 「いい子になりすぎ」の指摘を受ける。ほめること、がんばった後の抱きとめ、新しいこと自信のないことは無理をしない、教材のあたためを十分する等、Y子の段階を見極め、喜びや困難を加減してきたつもりではある。が、確かに、急ピッチで問題がなくなりすぎた感はある。我慢を強いているのではない、意欲的に生活に取り組むY子をめざしていることを再確認し、自己表現を促す工夫に取り組み、今後の指導に当たることにした。

(3) 12月「クリスマス会」—合同学習についてはP39以降に後述

クリスマス会の取り組みの中、主に日常生活において、つまづき、他児との衝突、先生に注意されることなどが目立つようになった。具体的には以下のようなことである。

- 「明日はクラブではなくて他のことをします。何でしょう？ときかれて、上や下を向いていた。12/7 → 失敗に対して憶病
- 湖山小の手品で、答はわかっているはずなのに全く発言しなかった。12/16 → 予想することが苦
- すごろくの順番を決めるジャンケンを絶対しなかった(ジャンケンへのコンプレックスから) 12/19 → 手なこと現れ？
- ツリーを怖がるEちゃんに担任Sがつききりになっていたら、Eに八つ当たり(自分もついて欲しい) 12/15 → 自分の気持ちにストレートな表現がうまくできない現れ？
- 「Kちゃんおいで」と言ったが断られ文句を言いに来る。スコップを「かしてくれん」と訴える(遊びたい、かして) → 同上
- 友達と遊びたくて側まで行くが「入れて」と言えず、教師の仲介でやっと遊べた。 → 同上
- 「先生が怒るけ～せんといけん」とウソの理由を言う(～したいの意) → 同上

考察

- Y子の性質や今の課題に基づくものの現れと考えられないか？ Y子の課題が①自分の気持ちを素直に表現して、相手に言いたいことを伝える表現方法の習得。②不得手な面を意識しつつ、それに対し、少しずつがんばること。の2点を示しているのではないかと考える。

- この時期、「Y子がY子らしくいたずらをするようになった。」と言われた。学習発表会後の指摘で指導に迷いを感じた12月だったが、そのせいであろうか？小学部の他教官の意見を吸い上げ、厳しさ甘さの行きすぎや偏りに留意していきたい。

## 5. まとめと今後の課題

- (1) おちこみ→ふてる・すねる→「私ふててない」と言う→注意されて直す→ストレートでない言い方をする。大体このような順序で困難への対応が変化しているとする。次は『ストレートに、言いたいことを言う』の段階に入っていくものと思われる。
  - (2) 大人の気持ちを察知することのできるY子である。ほめられることでやる気の出る発達年齢でもあるので、顔を見たり陰で活動したりする子にならない配慮、評価への配慮が重要である。
  - (3) Y子の段階を見極め、無理な課題は与えない、できたらほめる、がんばったら抱きとめる、喜びを一つは味わわせる、教材のあたためをする等、くり返すが大変重要なことと思う。
  - (4) 本事例の場合、観察に基づく評価であるため客観的とは言い難い取り組みだった。主観に偏らないよう、多くの人の意見・多角的なとらえ方に留意しなければならない。
- 大きくまとめると以上のようなものである。試行錯誤的な実践であったと反省する面が多い。が、それぞれの考察を全て網羅し、次のY子の課題に向けて指導を続けていきたい。